

# 「生きる力」を育む課題学習

——生活文化の伝承——

福田 公子 井川 佳子 小林 京子  
高橋美与子 西 敦子

## 1. はじめに

平成14年度から、小・中学校では新教育課程が実施される。今回の改訂の主眼は、「ゆとり」の中で自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本としている。これは、平成8年の中央教育審議会第一次答申において提唱されたものであるが、児童生徒の生活環境の著しい変化をもたらす新しい時代の到来に対応した教育の主眼といえよう。

元来人間は「生きる」ために文化を産みだし、その文化を伝承し蓄積することによって、自然環境から決別して、より豊かで快適な人工環境を形成してきた。歴史が示すように、島国の日本においては、石器時代から大陸との交渉を持ちながら、比較的独自の文化を形成してきた。先進国といわれるようになった現在、グローバルな地球諸問題と未来の国民を視野におきながら、どのような文化システムを築いていくべきかという課題は、今を生きる市民一人一人の重要な実践的課題である。

ところが、最近の急激な社会変化は、生活を多様化させ、必ずしも自明のものでなくなってきている。特に家庭科は、家庭を中心とした生活についての認識と実践的能力を育てる教科である。文化システムの基底となる生活文化は、家庭科の学習内容を構成している。

高等学校「家庭総合」では、従来の衣食住の生活を、生活文化と総称しているが、定義はされていない。生活文化は、従来は家庭生活にて伝承されており、具体的な場面で模倣や伝達により学習が行われている。そのため、家庭・地域・民族に固有な生活文化が伝承されている。その背景には、地理的・気候的・歴史的・人間的な合理的な科学性に裏打ちされていることも多く認められる。

高度経済成長期を経て、消費経済の担い手となった児童生徒にとって、生活は意識されない事象となってきた。ましてや、生活文化を家庭で伝承されているという意識は薄い。

今日では、もともと家庭内で行われていた生活諸般において、利便性の追求や社会化、商品化が急速に進行している。また、情報化の進行も著しく氾濫しているが、総合的な情報は少なく大半は断片的で誇張されたものが多い。さらに、家族の生活リズムも個人の生活が優先され、個々の生活時間のずれによって家族のコミュニケーションは不足している。

こうした状況下では、物事の原理・原点・原型の知識は欠如し、昔ながらの知恵の生かされた生活文化の伝承は行われ難い。将来の生活のあり方や価値観、主体的な生き方の素地が培われる大切な時期に当たる小中学生が、この状況をごく当たり前と受け止め、生活体験不足のまま大人になることは、生活の自立及び家族のみならず他者との人間関係において多くの問題を残すことになるであろう。

そこで、本研究では、文化の伝承を食生活文化を中心に検討し、次いで家庭科における課題学習の指導方法によって授業実践を行う。対象は小学校5年生、中学校1年生および中学校2年生である。この授業実践によって、子ども達は、生活文化を受け継ぐ機会を得ることにより、家族の一員としての自覚のもとに、役割分担を果たしながら生活体験をすることを意図している。そこでは、どのように家族とのコミュニケーションを深め、どのような生活文化の伝承が行われるかについて探究し、それが「生きる力」となることについて検討する。

## 2. 課題学習における生活文化の伝承

「文化」という言葉には多くの定義が試みられている。広辞苑の定義やいくつかの成書などを参考にすると、「文化とは人間が自然に手を加えて形成してきた物質と精神における成果であって、人間の生活を形作っている様式とその内容、具体的には技術、学問、芸術、倫理、信仰、政治、風習などの諸事象すべてを含むもの」となる。即ち、「生活とは文化の基礎の上に実践

される人間の営みすべて」を意味し、「生活は文化である」ということができる。このように生活そのものを一種の「文化」として捉えようとする考え方は、文化人類学の台頭などを背景に、二十世紀の中頃から急速に発達した。

ところで、典型的な生活文化として私達の頭に想起されるものは、日常的な生活よりはむしろ、お正月、成人式、お祭りなどの行事や、それに関わる料理、道具、衣装のような、コトやモノである。これらは日常的な事象とは異なり、歴史的価値や美的価値に代表されるようなある価値を持つと誰でもが認めるものである。一方日常茶飯事には身近すぎてどのような価値があるかが分かりにくい。しかし、日常生活が自分の健康や活動にとってどれだけの価値があり、人間が平穩無事に暮らすために、営々と積み重ねてきた努力の結果として今の生活が存在することが感得できた時、かけがえのないものとして日常生活を慈しみ、よりよく暮らそうという意識が鮮明となって、過去から現在、さらに未来へと連続と続く生活こそ、「文化」と認識できるようになる。このような認識への入り口として、家庭科における生活文化を考える意義は大きい。

生活は種々の要素で成り立っているが、これを食生活文化、衣生活文化、住生活文化、保育の文化のように捉えることができる。それぞれの生活文化はその分野固有の側面を持つと同時に、人間の生活という点で共通基盤を持ち、相互作用と関連性を有している。従って食生活文化を中心に取扱った場合にも、他の生活文化との関係を視野に入れ、生活総体としての家庭における暮らし方の理解を助けるような授業の組立が必要になるであろう。

日本における食生活は特にこの100年ほどの間に大きく変容し、今なお変化し続けている。科学技術の発達とは多様な食品を生み出し、食の社会化が進化した結果として家庭における食事の場の意味を大きく変化させた。もはや30年前の食生活に関する知識や情報は実生活上まったく役に立たないと考える人がいても不思議ではない。しかし、人間の味覚や食べ物に対する価値観は表面上の変化に比べると、わずかしかが変わっていない。これは人間の生理的側面はあまり大きくは変化していないこと、食生活に関する基本的な文化が家庭内で無意識に伝達されることに依ると考えられる。一度身につけた文化はモノのレベルでは比較的簡単に変化するが、日常経験などから学んだ文字化されにくい習慣や価値観のレベルでは、むしろそれを維持しようとする方向性が強いと考えられる。家庭における食生活文化の伝承は、このような文字化されにくい、従って他者に説明することの難しい、重ねて言えば、経験

によって何となく感じ取り、自分の中に無意識に習慣化される側面を持っている。家庭生活の価値が見えにくい状況下にあっては、このような無意識の伝承部分を含めて生活文化或いは食生活文化を考える視点が課題学習においても重要となるであろう。

そこで、小学校、中学校の児童生徒を対象に、課題学習として授業実践を試み、実態と課題を明らかにした。

### 3. 小学校の授業「家庭の仕事に取り組みよう③」

#### 1) 実施計画と方法

「家庭の仕事に取り組みよう①」は4、5月に実施した。家族の一員としての自分の役割を考えた後、家族と話し合って自分の仕事を決め、2週間の記録期間を定めて仕事を実行する。この時期は家庭科学習のスタート時期でもあり、子どもたちはかなりの意欲を持って家庭の仕事に取り組む。通学時間も長く、帰宅後も学習塾や習い事に通う本校の子どもの実態を考えると、過剰と思える計画を立てる場合も少なくないほどである。「家庭の仕事の取り組みよう②」は、夏休みをはさんでの実施である。配膳や食器の片付け、洗濯物の取り込み、ゴミ捨てなどのように、できるだけ毎日継続的にできる仕事の他、墓参りなどのお盆の行事の手伝いを積極的にするように呼びかけた。9月の最初の授業で、仕事の記録表をもとにお互いに気付きや反省を発表し合い、家庭の仕事への参加意識を高めてきた。

本題材の「家庭の仕事に取り組みよう③」は、冬休みをはさんでの取り組みである。年末年始を含む冬休みは、単に日常に比べて家庭の仕事が多いというだけでなく、伝統的な家内行事が行われる時期でもある。古くから伝承されてきた日本の伝統文化をそのまま家庭に取り入れているものもあれば、曾祖父母から祖父母へ、祖父母から父母へと伝えられた、その家々々のものや、伝承されていく中でその時々々の知恵や技が加わって今に受け継がれたものもある。それらの中には、文字に記されて伝えられたものもあるが、家族の生活の中で見たり聞いたり触れたりしながら体験的に伝えられていくものが多いと考える。子どもたちが意識的にそれらの生活場面を捉え、興味を持ち、家族から話を聞いたり家族と一緒に活動することは、家族のコミュニケーションを深めるとともに、家族の生活文化を体験的に理解することにつながると思う。また、体験したことを文字や言葉で表現し交流していく活動は、お互いの課題意識を明確にし、探求活動を活発にすることに有効に働くと思われる。

冬休みに家庭の仕事をしようという大まかな課題は、教師と子どもが一緒に決定し、何を個人の課題とするかは、子ども一人一人が自分の興味関心や生活実態に

応じて決定することとした。

本題材の目標と指導計画は以下の通りである。

### ○題材の目標

- ・年末年始に行われる家庭の仕事に取り組み、家族の一員としての役目を果たす。
- ・家族の仕事の様子を見たり話を聞いたりしながら、昔ながらの方法を知りその良さに気付くとともに、自分でも試してみる。
- ・わかったことや気付きを文字や言葉で表現できる。

### ○指導計画

- ・年末年始の仕事選び …………… 0.5時間
- ・仕事の計画 …………… 0.5時間
- ・仕事の実行と新聞作り …………… 冬休み
- ・新聞発表と意見交流会 …………… 1時間

## 2) 授業の結果と考察

### (1)課題の設定と調べ活動

仕事を選ぶ前に、まず、4、5月に行った仕事や夏休みに行った仕事、現在も行っている仕事について発表し合わせた。4、5月の学習以降、現在も続けて仕事を受け持っていると答えた子どもは、「毎日」と「ときどき」を合わせると、半数を超えた。そのうちの約2割の子どもは、母親と一緒に食事の支度をするとか、アイロンをかけるなどの内容であったが、8割の子どもは、新聞取り、牛乳取り、犬の散歩をはじめとしたペットの世話、自分の部屋の片付けなど、短時間で機械的にこなせる仕事が多かった。

そこで、冬休みの間は、毎日継続してする仕事でなくてもよいから、何か一つにこだわって、体験とともにその手順やコツについて詳しく研究することを教師から提案した。例として「網戸の掃除徹底研究」「黒豆の作り方」などを挙げると、子どもたちは積極的に賛成し、自分の課題探しをはじめた。自分の興味を引くもので、かつ、家族の仕事の援助にもなり役立つ事柄を見つけるために、最終的には家族と相談して決定することとした。家族の希望は1位窓ふき、2位自分の部屋の掃除、3位風呂掃除という結果に見られるように、掃除に関するものが多かったが、子どもたちは料理作りに関心が強い傾向が見られた。

子どもたちが選んだ課題は、以下のようなものであり、新聞の題名として発表された。

おせち料理大解剖 おせち料理の飾り切り もち新聞  
おせち作り 我が家の雑煮新聞 おせち料理の  
ひみつ 日本のお正月 鏡餅新聞 数の子について  
お正月のQ&A 日本食通倶楽部 お正月のならわし  
大そうじのウラワザ研究 整理整頓のしかた  
窓ふきそうじ 網戸のそうじ方法 洗濯新聞 小学

生正月準備新聞 障子のはりかえ ぼくのやった大そうじ

### (2)発表と意見交流

ほとんどの新聞は、大変よく書き込まれており、完成度が高かった。自分の発表で持ち時間を超えて熱っぽく説明する子どもが多く、子ども自身の満足度が高いことがうかがえた。興味をもって新聞作りに取り組めたことが推察された。

最も話題をよび話し合いが活発であった記事は、自分が体験したことの説明や実物の写真部分であった。記事の種類からいうと、おせち料理に関するものが最も多く、おせちの言葉の由来や、一つ一つの料理に込められた願いが丁寧に調べられ、記述されていた。このような新しい知識は子どもたちの興味を引き、反応も大きかった。しかし、それらの記事はどの新聞にも共通する内容であるため、一度発表されると、次からは詳しく説明する必要がなくなり、子どもたちの関心も持続されなかった。それに対して、自分が作った料理の説明や、我が家のおせちの説明をする者は、意気揚々としており、聞く側も自分の家の料理と比べたり、発表者の料理手順の説明に対して自分のアドバイスを加えたりと、交流に熱が入った。例えば、「田作りを作ったけれど意外と簡単にできた」と言えば、「本当にそれだけでいいならぼくにもできそう。」「気をつけることは何。」というような意見の応酬がごく自然になされた。障子のはりかえに関しても、「店で売っているのりを使わないで、手作りののりを使うことがコツ。」と言う発言は注目された。自分が見たり聞いたり触れたりして体験したことに関しては、相手に訴える言葉にも説得力があり、活発な意見交流を生みやすいことが考察された。

### (3)新聞作り

すでに触れてきたように、新聞にはお正月のモノやコトを中心に、多様な生活文化に関する知識や知恵、技術や技能およびしきたりや慣習などがみられた。その中から、事例として資料1のようなものが作成、発表されたことを示す。

### 3)「生きる力」からの考察

「生きる力」とは、生活する上で直面するさまざまな場面において、その時々状況を判断し適切な方法で対処できる力、あるいは生きて働く力と言い換えることもできる。知識や技術を持っていても、それを適切に使うことができなければ、生きる力を身に付けたことにはならない。身に付けた知識や技術が、自分の生活とどのように切り結ばれるのか、自分の生活との関連で捉えてこそ、知識や技術は生きてくる。

小学五年三月準備新聞

2011年(平成23年)12月20日(水曜日)

# 田妻 又弟 障子 はりに ちまう 戦

## 小学生正月準備新聞

2011年(平成23年)12月20日発行 田妻 又弟 障子 はりに ちまう 戦

12月の20日(水曜日)は、田妻又弟障子をはりにちまう戦の日です。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。

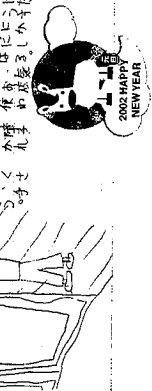
田妻又弟は、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。

田妻又弟は、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。

田妻又弟は、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。

田妻又弟は、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。

田妻又弟は、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。この日は、田妻又弟の魂が、障子をはりにちまう戦をします。



# おせち料理は田作りがウマい。

おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。

おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。

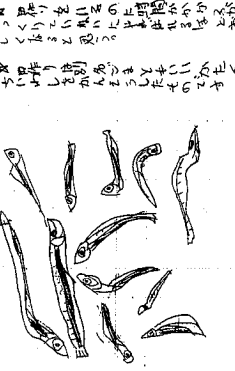
おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。

### 注意

おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。

おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。

おせち料理は田作りがウマい。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。田作りは、おせち料理のなかで、一番ウマい料理です。



# おせち作り

1月4日(金) 津谷元宏社

### おせち料理とは?

おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。

おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。

おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。

- ### おせち料理の意味
- 魚の子 → 子孫繁栄
  - 田作り → 豊作
  - 栗 → 実運
  - 小豆 → 厄払い
  - たい → たいへん
  - タ子子 → 子に子に
  - 餅まき → 餅まき
  - まごころ → 気持ちよく
  - りんご → 健康
  - はるひ → 春
  - 紅白煮物 → 縁起
  - 栗きんとん → 金運

おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。

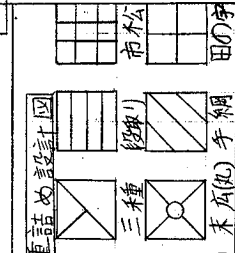
おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。

おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。おせち料理は、お正月に食べる料理です。



### おせち料理の順番

- おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。
- おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。
- おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。おせち料理の順番は、お正月に食べる料理の順番です。



### ぼくのおせちチャレンジ!

ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ!

ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ!

ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ! ぼくのおせちチャレンジ!

生活の文脈の中で、祖父母や両親の行為を見たり話を聞いたりすることは、単なる知識の獲得ではなく、どのような状況の時にどのように対処していくかという手本を目の当たりにすることである。生きる力を育むためには、生きる力を持った人間つまり人生の先輩である大人の知恵に学ぶことは、有効な手段であるといえる。また、資料から得た情報も、文字の上の理解に留まらず、自分の生活場面に当てはめ現実と重ね合わせて理解していくことで、生きて働く力となりうる

と考える。  
 今後は、伝統行事に関わるだけでなく、日常繰り返される家庭の仕事においてもさまざまな知恵や工夫がなされていることに気付かせ、家族の触れ合いの中で生活文化が伝承されていくことを大切に扱いたい。

#### 4. 中学校1年生の授業「家庭の仕事にチャレンジ」

中学校の技術・家庭は、新学習指導要領からは〔技術分野〕と〔家庭分野〕に分けられ、後者ではA生活の自立と衣食住とB家族と家庭生活とで構成されることになった。そして、時間数が大幅に減少されることになった。そのため、基礎的・基本的な知識・技術を身に付けさせるためには、学校における学習と家庭や社会における実践との結びつきを図る必要がある。そして、自ら課題を見出して、探求していく課題学習が有効であると考えられる。

しかしながら、受験戦争といわれる体験をしてきた生徒たちは、必ずしも家庭の仕事に参加していないように見受けられる。そこで、夏休みの課題として、「家庭の仕事にチャレンジ」というテーマを提示した。

実践後の生徒自身の実施状況や保護者の子どもへの関わり方および感想について調査した。回答者数は、男子28人（保護者23人そのうち2人が祖母で他は母親）、女子30人（保護者24人全員母親）である。

以下、生徒と保護者について、1) 家庭の仕事への意識、2) 家庭の仕事への関わり方、3) 「家庭の仕事にチャレンジ」した感想、の調査結果について考察をする。

##### 1) 家庭の仕事への意識

家庭内の仕事については、生徒及び保護者（多くは母親）共に「家族が分担協力するのがよい」という意識が圧倒的である（表1）。そして、「自分以外の人（特定の人や大人、また男子では女子）がすればよい」といった意識のものが生徒では約20～30%みられる。中学生になって、自我が発達するにつれて、自己中心的な傾向に向かうようである。男子の場合に、「女子がやればよい」という性役割分業観を根強く維持している者もいる。

表1 家庭の仕事についての意識

| 調査項目 家庭の仕事は              |    |    |    |        |        |
|--------------------------|----|----|----|--------|--------|
| ア、家族の中で特定の人が主にやればよい      |    |    |    |        |        |
| イ、大人がやればよい ウ、女子がやればよい    |    |    |    |        |        |
| エ、男子がやればよい オ、家族で分担するのがよい |    |    |    |        |        |
| カ、その他                    |    |    |    |        |        |
| (人)                      |    |    |    |        |        |
| 家庭内の仕事（中学1年生）            |    |    |    |        |        |
| 項目                       | 対象 | 生徒 |    | 保護者    |        |
|                          |    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア                        |    | 3  | 3  | 2      | 0      |
| イ                        |    | 1  | 3  | 0      | 0      |
| ウ                        |    | 4  | 0  | 0      | 0      |
| エ                        |    | 0  | 0  | 0      | 0      |
| オ                        |    | 19 | 22 | 22     | 24     |
| カ                        |    | 1* | 2* | 1**    | 0      |

〈カの考え〉  
 \* 暇な人、\*仕事をしない人、\*できる人がする  
 \*\*無答

現代の家庭生活では、家事は電化されて簡便になり、生活必需品は商品化されてスーパーマーケットに溢れており、家庭の仕事が生徒に見えなくなってきている。  
 2) 家庭の仕事への関わり

家庭の仕事が多様多様あるが、生徒はどのように家庭の仕事に関わっているのであろうか（表2）。自分の役割（分担）としての仕事を行っているものが男女とも約20%あり、決まった役割ではないが気づいたら進んでしたり、頼まれると気持ちよく手伝っているものが男子で約50%、女子で約75%強いる。

しかし、「頼まれても面倒がる」、「気が向かないとしない」が約30%～40%いるが、「全くしない」はいなかった。

保護者は、子どもの家事への関わり方をどう受け止めているのかを見てみると、「毎日の役割分担がある」（男子の保護者で40%、女子の保護者で約20%）、「気付いたらする」、「頼めば気持ちよくする」（約50%、62.5%）と受け止めていて、生徒の回答との差が見られ、評価が甘い傾向がみられる。すなわち、親が子どもに対して、家庭の仕事をすることを期待していない傾向がみられるといえよう。

##### 3) 「家庭の仕事にチャレンジ」した感想

夏休み、家庭の仕事にチャレンジすることを課題学習とした。その場合、親からアドバイスを受けながらチャレンジしたことが、生徒自らのプラスとなり、その後の生活に生かされているか、あるいは、その場限りに終わったり、アドバイスを迷惑に捉え、後の生活

表2 家庭の仕事への関わり方

調査項目 生徒 [家庭の仕事への関わり方]  
保護者 [子どもの仕事への関与]

ア、毎日決められた仕事(役割)がある  
イ、決められた仕事はないが、気付いたことはする  
ウ、頼まれる(頼む)と気持ちよくする  
エ、頼まれても(頼んでも)面倒に思う  
オ、頼まれても(頼んでも)気が向かないとしない  
カ、全くしない (人)

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 6  | 6  | 10     | 5      |
| イ  | 10 | 12 | 4      | 0      |
| ウ  | 4  | 11 | 8      | 15     |
| エ  | 7  | 8  | 6      | 6      |
| オ  | 4  | 1  | 1      | 0      |
| カ  | 0  | 0  | 0      | 0      |

**決められた(役割)仕事**

- \*食事に関すること(配ぜん等食事の準備、皿洗い等後片づけ)
- \*掃除(風呂・部屋掃除)
- \*洗たくに関して(洗たくものの取り入れ、たたむ)
- \*その他(布団の出し入れ、ベットの世話、水やり・草取り、言いつけの買い物)

**自分からしていること**

- \*食事に関すること(料理作り、食事の準備、後片づけ)
- \*掃除(風呂・部屋・玄関掃除、雑巾かけ)
- \*洗たくに関して(取り入れ)
- \*その他(風呂焚き、ベットの世話、ゴミ出し、草取り・水やり、依頼された買い物等)

**頼まれる(頼む)こと**

- \*食事に関すること(料理の手伝い、食事の準備、後片づけ、ご飯炊き)
- \*掃除(風呂・部屋・庭・玄関・廊下・階段、雑巾かけ)
- \*洗たくに関して(洗たくものの取り入れ、たたむ、干す、簡単な洗たく)
- \*その他(いろいろ雑多、ベットの世話、布団敷き、草取り・水やり、言いつけの買い物、ゴミ出し、アイロンかけ等)

**気が向かないとき**

- \*疲れているとき
- \*他にすることがある・やりたいことをしているとき
- \*依頼する人が怒る・命令するとき、雨降りのとき

表3 家庭の仕事にチャレンジして

調査項目 生徒 [家庭の仕事へチャレンジして]  
保護者 [アドバイスに対する子どもの受け止め]

チャレンジやアドバイスは  
ア、プラスとなった。(人)  
(後の生活に生かしている)  
イ、マイナスであった。  
(後の生活に生かされていない)  
ウ、プラスでもマイナスでもない  
エ、その他

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 20 | 28 | 10     | 15     |
| イ  | 4  | 0  | 2      | 0      |
| ウ  | 5  | 3  | 10     | 1      |
| エ  | 0  | 0  | 0      | 0      |

(生徒の意見)

**プラスになったこと**

- \*家庭の仕事のやり方がわかった。(手洗いの仕方、ふき掃除の仕方など)(14)
- \*できなかったことができるようになった。(アイロンかけ、晩御飯作り、洗たく、冷蔵庫の収納法など)(10)
- \*一人暮らし(自立したとき)に役立つ。(10)
- \*効率よく(手際よく)すすめるようになった。(3)
- \*物事をよく見られるようになった。(2)
- \*家の人の苦勞がわかった。(2)
- \*得た知恵が他のいろいろなことに生かされた。
- \*お母さんの負担を軽くできた。

**マイナスに感じたこと**

- \*自由の時間が減る。(4)、\*疲れる。(2)、\*面倒である。(2)
- \*後の生活に生かすようなことではない。(2)
- \*別に今からやらなくてもよい

(保護者の意見)

**生かされている内容**

- \*料理のしかた、食後の片づけ法、材料の切り方、料理の手伝いなど。\*洗たくの仕方。\*ゴミの分別。
- \*自立心が養われている。\*素直にやろうとしている。
- \*自分でできるという自信がついた。
- \*安全・簡単・きれいにできる方法は生かしている。

**生かされていないこと**

- \*そのときはわかっていても続けられていない。
- \*決まったことその他は、簡単な事でも積極的にしない。
- \*何か使った後の片づけ。
- \*見ていないとききちんとしない。

に生かしていないかについての調査結果を表3に示す。生徒の大半は、「プラスになり、後の生活に生かしている」と回答している。「プラスとマイナスの両面あった」と回答したものは、男女合わせて約30%ある。「生かしていない」、あるいは「迷惑である」と捉えているものが若干名(約15%、いずれも男子)いた。そして、マイナスや迷惑と受け止めた理由は、「疲れた」、「自由時間が減る」、「面倒」といったもので、アドバイスの内容に関わったものではない。わずかでは

あるが「後の生活に生かすようなことではない(男子)」とか、「別に今からやらなくてもよい(女子)」と受け止めているものがある。

保護者の立場から見ると、「アドバイスを生かしていない」、あるいは「継続していない」、「積極的にしない」などの受け止めが多い。これも先に述べたように、期待レベルと評価尺度の違いからであろう。

## 5. 中学校2年生の授業「食事作りにチャレンジ」

中学校2年生では「食事作りにチャレンジ」という課題学習を夏休みに実践した。それに関連して、1) 食事作りへの意識、2) 食事作りへの関わり方、3) 「食事作りにチャレンジ」の感想についての調査結果についてみる。対象人数は、男子27人（保護者27人母のみ）女子29人（保護者26人内祖母1人）の回答である。

### 1) 食事作りへの意識

家庭における毎日の食事作りについては、表4にみられるように、生徒も保護者も大多数の者が家族で分担するのがよいと思っている。家族の中で特定の人が主にすればよいと回答した者は、男子が約45%、女子で約20%程いた。現状を肯定的に見ているか、理想的な意見を述べているかの違いであろう。

表4 食事作りについての意識

| 調査項目 食事作りに関することは         |  |  |  |  |
|--------------------------|--|--|--|--|
| ア、家族の中で特定の人が主にやればよい      |  |  |  |  |
| イ、大人がやればよい ウ、女子がやればよい    |  |  |  |  |
| エ、男子がやればよい オ、家族で分担するのがよい |  |  |  |  |
| カ、その他                    |  |  |  |  |

(人)

| 家庭内の仕事 (中学2年生) |    |    |        |        |
|----------------|----|----|--------|--------|
| 項目             | 対象 |    | 保護者    |        |
|                | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア              | 10 | 8  | 6      | 5      |
| イ              | 0  | 0  | 1      | 0      |
| ウ              | 2  | 0  | 0      | 0      |
| エ              | 0  | 0  | 1      | 0      |
| オ              | 14 | 20 | 14     | 16     |
| カ              | 1* | 1* | 5**    | 5**    |

\* 手伝えばよい  
 \* 分担もよいがみんなで楽しく作るのがよい  
 \*\*主に大人がし、子どもや家族が手伝う  
 \*\*可能な者がする  
 \*\*作りたい人がする

### 2) 食事作りへの関わり方

中学2年生の食事作りへの関わり方は、表5のとおりであった。予測通りであるが「毎日役割(分担)としてやっている」はほとんどいない。「時々一人あるいは家族の人と一緒に食事作りをしている」が、男子約70%、女子で約90%強ある。

一方「ほとんど関与しない」が男子で約30%強、女子で約10%いた。いずれも女子の方が関わる傾向にあることが明らかである。

保護者では「時々一人で、あるいは家族と食事作りをしている」(56%, 80%)と受け止めている。生徒と保護者に、回答数に差が見られる。これは、親の期

表5 食事作りへの関与

| 調査項目 生徒 [食事作りへの関わり方]    |  |  |  |  |
|-------------------------|--|--|--|--|
| 保護者 [子どもの食事作りへの関与]      |  |  |  |  |
| ア、ほとんど毎日、一人で食事作りをしている   |  |  |  |  |
| イ、ほとんど毎日、家族の人と食事作りをしている |  |  |  |  |
| ウ、時々、一人で食事作りをしている       |  |  |  |  |
| エ、時々、家族の人と一緒に食事作りをしている  |  |  |  |  |
| オ、ほとんど関与していない           |  |  |  |  |
| カ、その他                   |  |  |  |  |

(人)

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 0  | 0  | 1      | 2      |
| イ  | 0  | 0  | 1      | 0      |
| ウ  | 9  | 8  | 5      | 5      |
| エ  | 10 | 19 | 9      | 16     |
| オ  | 9  | 3  | 11     | 5      |
| カ  | 0  | 0  | 0      | 1*     |

〈カの考え〉  
 \*頼んでおくと一人あるいは妹と

一人で食事作りをするとき (人)

| 調査項目          |  |  |  |  |
|---------------|--|--|--|--|
| ア、主に自分の分だけ    |  |  |  |  |
| イ、だいたい家族の分も作る |  |  |  |  |

(人)

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 6  | 6  | 6      | 2      |
| イ  | 5  | 8  | 8      | 9      |

時々食事作りをするのは (人)

| 調査項目       |  |  |  |  |
|------------|--|--|--|--|
| ア、家族の人の在宅時 |  |  |  |  |
| イ、家族の人の不在時 |  |  |  |  |

(人)

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 10 | 18 | 10     | 15     |
| イ  | 9  | 8  | 6      | 5      |

関与しないわけ (人)

| 調査項目     |  |  |  |  |
|----------|--|--|--|--|
| ア、暇がない   |  |  |  |  |
| イ、面倒     |  |  |  |  |
| ウ、時間がかかる |  |  |  |  |
| エ、技術が未熟  |  |  |  |  |
| オ、その他    |  |  |  |  |

(人)

| 項目 | 対象 |    | 保護者    |        |
|----|----|----|--------|--------|
|    | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア  | 1  | 1  | 8      | 5      |
| イ  | 7  | 2  | 6      | 2      |
| ウ  | 0  | 0  | 1      | 2      |
| エ  | 5  | 0  | 3      | 4      |
| オ  | 0  | 1* | 3**    | 3**    |

〈オの考え〉 \*ほとんど家にいないから  
 \*\*興味がない  
 \*\*家族が先へ先へと準備している

待の大きさや実行への評価尺度の違いによるものであろう。さらに、視点を変えれば親が子どもの様子をよく見ていない点も考えられる。このことは、今回の課題設定目標である、親子がコミュニケーションを図ることや生活文化の伝授に関わっているのに特に注目したい点である。

### 3) 「食事作りにチャレンジ」した感想

夏休みに、3日間の「食事作りにチャレンジ」するという課題学習をした。その際、親からアドバイスを

表6 三日間の食事作りを実践した感想

調査項目 生徒 [三日間の食事作りを実践して]  
保護者 [アドバイスに対する子どもの受け止め]

アドバイスは (人)

ア、参考となり、後の生活に生かす(生かしている)

イ、迷惑で、後の生活に生かされない

ウ、参考になったことや迷惑なことがあった

エ、その他

| 対象項目 | 生徒 |    | 保護者    |        |
|------|----|----|--------|--------|
|      | 男子 | 女子 | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア    | 23 | 22 | 13     | 14     |
| イ    | 1  | 0  | 0      | 1      |
| ウ    | 2  | 7  | 7      | 6      |
| エ    | 0  | 0  | 3*     | 2*     |

(エの考え)

- \*参考になったようであるが後に生かしていない。
- \*あまり気にしていない。
- \*あまり作らないというより、やる気がない。
- \*父・兄にほめられ、本人はうれしそうである。

(生徒の意見)

参考になり、今後に生かしたい内容

- \*栄養について、栄養のバランスを考える。(2)
- \*色・材料の性質・栄養のバランスを考える。(2)
- \*材料の切り方、ご飯の混ぜ方・盛りつけ方、麺のゆで方、材料の加熱順等調理法。(7)
- \*彩り・盛りつけをよくする。(3)
- \*味付け・家庭の味、本の分量通りにいかない。(3)
- \*手順良くする、何かをしながらその間に他のことをする、時間を効率的に手順良く、手順良く整理し、後片付けしながらする、時間を無駄にしない。(9)
- \*衛生面、料理は作るだけでなく台所をきれいに。(2)
- \*家族の人の好みを考える。 \*できるだけ全部

迷惑に感じたこと

- \*いちいち少しのことで口出しすること、文句ばかり言ってくるさかったこと。(4)
- \*わかっているのにこうやれと言われること。
- \*これからやろうと思っていることをうるさく注意されること。

(保護者の意見)

参考にし、後に生かしていること

- \*不足しがちな野菜をどんな料理にもふんだんに使う。料理を作るとき必ず野菜を加えるようになった。
- \*好きでなかった野菜も栄養を考えて食べるようになった、せつかく作った食事なので残さず食べている。
- \*料理のレパートリーが増えている。 \*味付け(薄味)。
- \*材料の切り方、米の研ぎ方、ジャガイモの扱い。調味料を入れるタイミング。料理にあった切り方。
- \*作りながら後片づけをしている。
- \*包丁の使い方を時々練習している。
- \*1人でいるときは自分で作って食べている。

迷惑に感じていること

- \*うるさく何度も注意したこと、盛りつけ等細かく言ってきたから。
- \*手伝いを強要されること、しょっちゅう頼まれるとイヤだなあと思っている。
- \*一度にいろいろアドバイスしたので対応できずうるさがられた。
- \*味付けはもっと好みでしてみたいようである。
- \*時間がかかること。
- \*料理はもっと大きくなってから習えよと考えている。

表7 技法や意味の伝授に関しての考え

調査項目 ア、受け継いでいきたい(いつて欲しい)  
イ、受け継ぐほどのことはない(受け継ぐほどのことはなく、自分なりにやればよい)  
ウ、その他

中学1年生

| 対象項目 | 生徒  |     | 保護者    |        |
|------|-----|-----|--------|--------|
|      | 男子  | 女子  | 男子の保護者 | 女子の保護者 |
| ア    | 19人 | 27人 | 16人    | 14人    |
| イ    | 7   | 1   | 6      | 7      |
| ウ    | 1*  | 1*  | 3**    | 3**    |

(ウの考え)

- \*アとイの間
- \*\*親の方法はベストではないので参考にしながら、自分なりの工夫をして欲しい。
- \*\*受け継いで欲しいものもあるが、自分なりに工夫して欲しい。
- \*\*本人が気付くことが大切で、疑問を持ったとき一緒に考えたい。
- \*\*あまりかたく考えていない。
- \*\*一人暮らし、共同生活をするとき、困らない程度の知識は身につけて欲しい

中学2年生

|   |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | 24人 | 14人 | 14人 | 19人 |
| イ | 3   | 7   | 6   | 4   |
| ウ | 0   | 3*  | 5** | 4** |

(ウの考え)

- \*無答
- \*\*基本は覚えるべきだが、味付け・盛りつけは自分で考えればよい。
- \*\*受け継がせたいほどのものはないが、これからは積極的に作って欲しい。
- \*\*目や舌で自然に覚えてくれればよい。
- \*\*自分は本を見ながら料理を覚えたので子どももそうして欲しい。また、食文化は家庭の中で自然に伝わっていく
- \*\*やる気であればどしどしアドバイスしたい。
- \*\*できることから少しづつやればよい。
- \*\*自炊するとき、体のことを考え作れる人間であってくれればよい。

受けながらチャレンジしたことが、生徒自らのプラスとなり、その後の生活に生かされているか、あるいは、その場限りに終わったり、アドバイスを迷惑に捉え、後の生活に生かしていないかについての調査結果を表6に示す。大半は、「プラスになり、後の生活に生かしている」と回答している。「プラスとマイナスの両面あった」と回答したものは、男女合わせて約30%ある。「生かしていない」、あるいは「迷惑である」と捉えているものが若干名(約4% いずれも男子)いた。そして、マイナスや迷惑と受け止めた理由は、「疲れた」、「自由時間が減る」、「面倒」といったもので、ア



表8 生活の知恵及び自分（子ども）に力をつける手だて

1) 中学1年生

(生徒の考え)

生活の知恵とは

- \* 家庭の仕事が効率的にすすめられるもの。家事を楽にするもの。生活をしていく中で仕事を少しでも効率よくしたり、やりやすくすること。仕事をするとときにうまく素早くやれること。
- \* 生きて行くに当たって必要最低限のこと。自分で生きていくときに必要なもの。
- \* 誰が考えたかわからないが、自分の力になりやすいもの。
- \* 生活をよりよくするためのコツみたいなもの。快適な生活を営むための工夫。気持ちよく生活するために必要なこと。将来自分の家族に気持ちよく生活してもらうためにプラスとなること。
- \* その家その家に受け継がれてきた生活の工夫。
- \* やらなければならないことの中での工夫。

自分の力となるには

- \* 何回も実践する。(16), \* 日頃から手伝いをする。(8)
- \* 自分から進んでやる。(8), \* 家族の人と一緒にやってみる。(2)
- \* 教えてもらってやる。(82), \* いろいろな仕事でまねをしていく。
- \* 意欲を持つてする。\* 続けていくことで自分の力となる。(その他)
- ・ 生活の知恵とかは、ある程度大きくなってから学ばばいいもの。
- ・ どうでもいい。

(保護者の考え)

生活の知恵とは

- \* 頭の中だけでは気付かないことが生活する中でいろいろ気付く便利さ・節約方法等。時間や費用面で節約をすること。生活していくうえで、能率よくできる・節約できる方。資源とゴミの分別、節約方法、要領よく仕事ができる方法。家族が気持ちよく暮らせるためのもの(節約・節電・節水等)。
- \* 親や祖父母から見聞きした、生活の中でなるほど役に立つこととか、自分や他人のためになること。家族が生活をしていくうえでいかに暮らしやすくしていくかの工夫。生活していく上で物事スムーズに行うことができるアイデアである。人からいろいろ聞いたり、自分で考えたりして少しでも合理化できること。昔から引き継がれてきたものと、それぞれの生活形態の中でより快適な生活を営むために工夫されていくものがある。日常生活の中で効率よく物事ができる方法。生活していくうえでの工夫。どういったことに気をつければ後の作業が楽になるかの工夫、逆に予防処理のためにはどうすればよいか逆読みする力も生活の知恵である。家事を合理的にするために培われてきた方法。
- \* 人が生きていくために行う衣・食・住に伴う処理能力や管理能力。
- \* 祖父母や父母から受け継いだもの。

子どもに力をつけるには

- \* その都度ごとに根気よく教える、伝える。自分で知っていることを子どもに伝えていきたい。アドバイスしていく。親から受けたなると思うことを伝えていく。
- \* 子どもと一緒に行動することで伝えられる。

\* 折に触れ、話し合い共に体験する。

- \* 家族で見て、気付いたり感じたことを話し合い、考えることで自然と子どもの力となる。いろんな工夫をして考え、家族で話し合っていくと大きく成長する。
- \* 子どもがいろいろ体験実践すること。生活体験をし、自分で工夫したり、考える。いろんな事を自分なりに考えて、いろんなやり方をして臨機応変にしていく。失敗や感動を糧にして工夫していく。マニュアルを読むだけでなく、自分で行う中で疑問を感じ、それに答えが得られた時よく吸収される。
- \* 家族が共同生活をしているということで、何か役立つことを決め、継続していくことが大切。
- \* 先輩からの言い伝えや、見よう見まねで自然に身に付くが、受け入れようとする気持ちが必要。
- \* 親から言うのではなく、自分たちで考えて行動する。

2) 中学2年生

(生徒の考え)

生活の知恵とは

- \* 昔から受け継いできたもの。祖母が知っている自分で考えた知恵(研究した)。
- \* 生活していくうえでの知恵。家事でのちょっとした技。
- \* 合理的に手早く物事を進める方法。生活を効率よくしていく方法。
- \* 少しでも材料などを大切に、無駄使いをしないこと。無駄をさける工夫。資源を無駄にしない工夫。
- \* 最低限生きていくために必要なもの。

自分の力となるには

- \* 家事を進んでして、親から学ぶ。
- \* 家族と一緒に行動することで自分の力となる。
- \* 実践してみる。毎日やっていくとだんだん自分の力となる。
- \* 手伝いをする。手伝ったり見たりして学ぶ。
- \* 教えてもらって努力する。\* 素直に受け止めていく。

(保護者の考え)

生活の知恵とは

- \* 家族が健康で快適に暮らすための工夫。
- \* 日々の暮らしを健康的で、安全にしかも無駄を省き、お金のかからない方法で暮らすための知恵。
- \* 困ったな一と言う状況に出くわすときに、いろいろな角度から捉えるよう工夫すること。\* 生きていく力

子どもに力をつけるには

- \* 親が手抜きをせずに、手本を示すこと、子どもは親の背中を見て育つ。親が実践している姿を見せ、折に触れその意味を伝えていく。親がしていることを自然に見て受け継いで欲しい。
- \* 子どもと一緒に家事をしながら、話し合う。家族と一緒に家事をする中で身に付く。一緒にしてみる。親がリサイクルで作ったものを見せ、意見を聞いたり使わせてみる。
- \* 自分でとにかくいろいろ経験して行くことが大切。何事もさせてみる。子どもの実践体験で得られる。いろいろやってみて、自分にあったやり方を発見していく。何度かやっているうちに失敗しながら学び、それを次に生かしていく。知っているだけではだめで、生かされていくことが大切、見る・聞く・実践することによって身に付く。

アドバイスの内容に関わったものではない。

2年生では、ほぼ全員が「参考となり、後の生活に生かしたい」と受け止めている。中には、「うるさい」、「いちいち少しのことで口出しすること」等、迷惑と捉えていることもあるが、やはり内容ではなくアドバイスの仕方に関することである。

2年生の保護者では、アドバイスの内容に対しては生徒の回答と同じく、参考として後の生活に生かしていると受け止めている。子どもが迷惑と感じている点は、子どもに強要したり、うるさく注意したことや子どもが時間がかかりすぎることであり、と受け止めている。

## 6. 中学生の課題学習の効果

中学1年生の「家庭の仕事へのチャレンジ」と中学2年生の「食事作りへのチャレンジ」の課題学習によって、生徒と保護者との間にコミュニケーションが生まれている。そして、両者とも家事や料理の生活文化の一端について、それらを伝承することの意義や方法について考えたことであろう。それらについて、1) 技法や意味の伝授に関する考え、および2) 生活の知恵及び自分(子ども)に力をつける手だてについて、生徒自身と保護者がどのように考えているかについて調査を行った。

### 1) 技法や意味の伝授に関する考え

課題学習をすることによって、親子のコミュニケーションを図り、アドバイスを通しての技法や意味の伝授に関しては、表7に示す結果を得た。1年生では、男子の25%を除いてはほとんどが受け継ぎたいと思っている。保護者は、約60%前後が受け継いで欲しいので今後もアドバイスしたいと思い、残りは表中に示すように、「親のやり方がベストではない」、「本人が気付く事が大切で疑問を感じたとき一緒に考えたい」、「自分なりに工夫して欲しい」と思っている。2年生では、アドバイスが参考になったためか、男女とも約90%のものが「受け継ぎたい」と思っている。保護者は、男子で約56%・女子約70%強が受け継いで欲しいと願っている。残りは、表中に示すように、ほぼ1年生と同様の考えである。

### 2) 生活の知恵及び自分(子ども)に力をつける手だて

最後に、「生活の知恵はどのようにすれば自分(子ども)の身につき、力となるか」という質問に対して、表8のような結果を得た。

生徒は、「とにかくやってみる」、「実践を通して学ぶ」と考え、保護者も、子どもの実践に期待をしている。その実践には、手本を示したり、コミュニケーションを図りながら一緒に考え、実践していくことである

している。

以上の実践報告のように、家庭での課題学習は、生徒の技術の向上につながると共に、親子のコミュニケーションを深め、親からその家庭のやり方・工夫等の知恵や意味を受け継ぐことの大切さや今後そうした機会を増やしていこうとする意識や実行のきっかけとなっていることが推測された。今後は、こうした親子のコミュニケーションが深められる機会を持つ一助として、また、家庭科教育の意義への理解を求めて、生徒たちの学校での学習から家庭生活や地域生活での課題学習につなげていくことが肝要である。また、生徒が行う課題学習について、各家庭での聞き取り学習の課題や実習作品に対して、保護者の感想・コメントを受ける課題を漸次増加することも意義があると考えられる。

## 7. おわりに

現代社会では、家庭生活を中心とした生活文化の伝承は意識化されていない傾向がある。児童生徒には、家庭の仕事自体が、自分には無関係なことがらであるように受け止めている。生活資源が商品化され、労力が電化されて、家庭の仕事の意味が見えなくなっている。従って、家族が力を合わせて共同作業をする機会も少なく、コミュニケーションも希薄になり、生活文化の伝承はほとんどなされていない状況にある。

ところが、小学生においても、学習課題の出し方や指導の方法によっては、家族の協力が得られ、伝統的な生活を掘り起こし、生活文化を発見している。特に、伝統的な行事には、生活文化の典型的な様式がみられる。小学校の授業実践では、お正月という機会を捉えて、日本の生活文化を掘り下げて、自ら体験することによって確かめ、それを発表することによって、仲間と共有している。新聞の事例にみられるように、具体的なものやその技法に関わる知恵などから、先人の工夫や創意を受け継いでいる。

中学生ともなると、家庭の仕事を家族で共同して遂行することの必要生は理解していても、日常的な生活ではあまり手応えを感じていない。しかしながら、三日間の食事作りの課題学習において、料理の一つ一つに技術や知恵があることに気づくことができた。真剣に取り組めば取り組むほど、奥の深いことを実感できているようである。

家庭科で求められる生きる力は、現実の生活世界において、環境の事実を認識し、判断して、適切な実践的行為を遂行できることである。学校で学習する教育内容は、体系化された知識であるけれども、児童生徒の家庭生活において、その知識を適切に活用することこそが、本来の生きる力となるであろう。